

12/14～15 父島観光そしてまた24時間の船旅 晴れ

12/14 小笠原島滞在最後の日となった。

ぜひとも父島について見分を広めたい！ということで、島内観光バス(マイクロバス)の半日ツアーを予約。他に客はなく私たちのグループだけの貸し切りとなる。運転手兼ガイドさんは、昨日と打って変わって寡黙。

車道は島の中央部を通過して、北と西側にあり、それを周遊しながら展望台を巡るというものだった。どこに行っても穏やかな大海原が広がり気持ちがゆったりしてくる。中でもウエザーステーション展望台は180度にわたり海を眺めることができる。ここはホエールウォッチングには最適な場所だという。私たちは目を凝らして海面を見つめるが残念ながらこの日はクジラの姿を確認することはできない。途中で立ち寄った宮之浜では、白い小石と思っていたものがみんなサンゴだったのでびっくり。

白い浜、透き通った青い海と空。写真でしか見たことがない景色が今目の前に広がる！そして、草木に覆われた朽ち果てた戦跡が今も残り、当時島にいた兵士達に思いを馳せ、今を考える、そんなツアーだった。

大根山公園から二見港を見下ろす



戦争の遺物



トーチカ



ウエザーステーション展望台

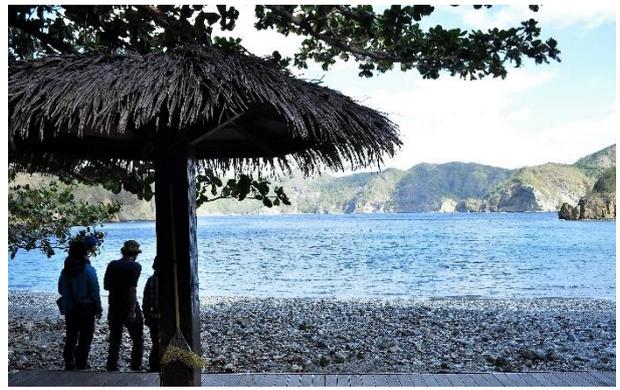


ホエールウォッチング





宮之浜



長崎展望台



国立天文台 電波望遠鏡

半日ツアーのあとビジターセンター、小笠原世界遺産センターを訪ね、小笠原について認識を新たにする。興味深い展示がいっぱいでおすすめ。私の昼食はここでしか味わえないウミガメ料理。島では今でもみんなが集まる行事には、必ずカメ料理が供されると食堂のおじさんが話してくれた。



父島 海岸通り



出航までの間
買い物や食事な
どを楽しむ



3時半、いよいよ出航の時。港にはたくさんの人々が見送りに来ていて、その中にガイドさんや宿のオーナーの顔も見える。私たちは姿が見えなくなるまで手を振り続けた。たくさんの船も伴走して見送ってくれる。しばらく行くと何と、寒い今日もまた、若者達が船上からダイブしてくれるのではないかと！乗客は歓声を上げて大喜び。別れに花を添えてくれた。東京に向けてまた24時間の長〜い船旅が始まった。(谷村 記)

この後、船上の人となるが往路よりも海がしけていたため、東京には30分遅れで12/15の16時頃に到着して今回の船旅、南国のネイチャートレッキングは無事終了した。今年は、佐渡島、小笠原諸島と離島を巡ったが、次は沖縄・西表島のマングローブのジャングル歩きなどができないかと考えている。(藤原 稔)

おがさわら丸 出航 15:30



島の方々のお見送り。



こちらも応えてフラダンス





夕日が太平洋に沈む



12/15 (土) 東京竹芝栈橋 15:30 着



レインボーブリッジ

6日間の旅の終り



おがさわら丸 航行は週に1回のみ



完

全体編集：藤原義弘